

ONKYO.

A decorative horizontal line consisting of several overlapping, wavy blue bands that flow from left to right across the middle of the page.

2018年3月期 決算ハイライト

2018/5/25
オンキヨー株式会社

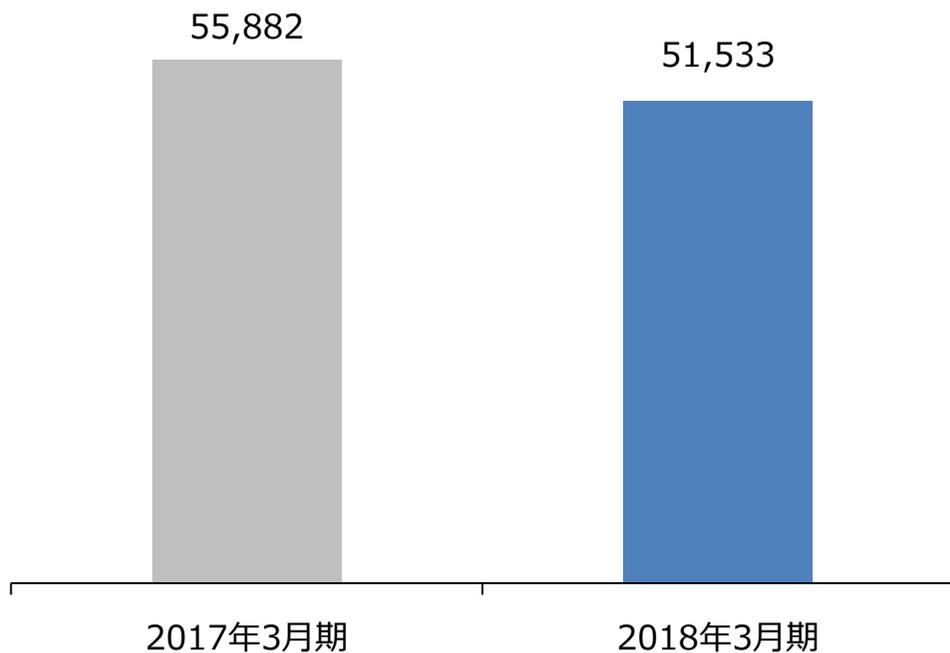
2018年3月期 決算

- 市場縮小、不採算モデルの戦略的見直し、外部要因（Gibson Innovations Limitedからの製品供給停滞）による減収
- AI/IoT時代に対応した積極的な開発を継続
AI関連開発、スピーカーやVibtone（加振器）の開発及びラインアップ強化
- 新製品の市場導入・プロモーション費用の増加
- 中国における生産拠点の再編とインド工場の本格稼働による生産事業の最適化を実施
- 3月末にグループの事業構造改革を実施
- 第4四半期の一部売上の2019年3月期への計上ずれこみ

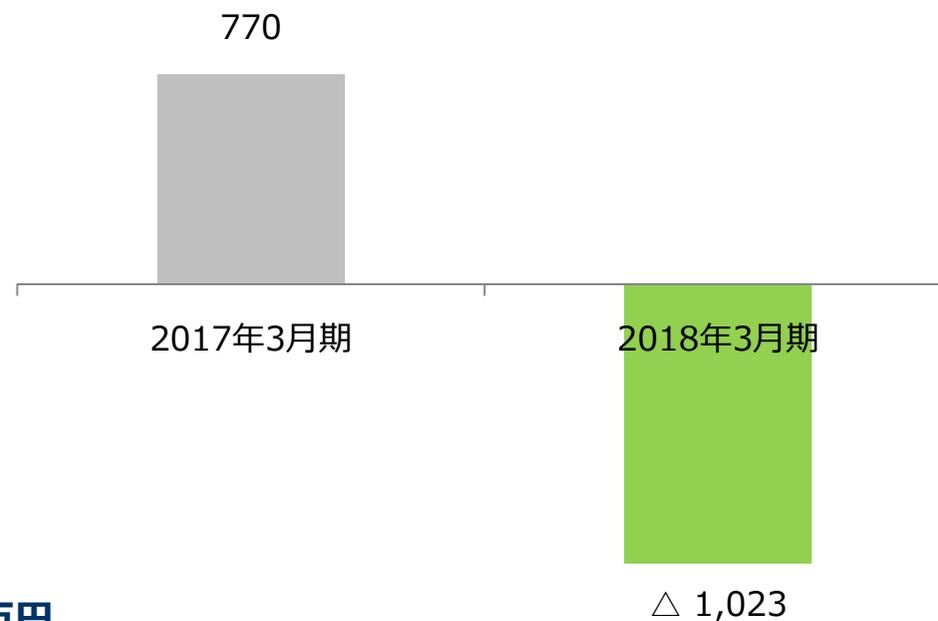
⇒ 減収減益となるが、2019年3月期での利益を確保できる体制を整備

2018年3期の概況 累計

売上高



営業損益



単位：百万円

セグメント状況 累計

単位：百万円

売上高
セグメント損益

全社費用（主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費用）2,894百万円は上記セグメント利益には含まれておりません。



■ AV事業

市場の縮小と不採算モデルの販売見直し、円高による海外売上目減りにより売上は減少
損益は、統合によるシナジー効果、円高による製品原価低減等により三期連続で増益

■ デジタルライフ事業

新カテゴリーのRayzシリーズやスポーツイヤホンの販売好調により三期連続増収
ただし、Gibson Innovations Limitedの製品供給停止、AI関連製品の研究開発費や
販売促進費用の発生により減益

■ OEM事業

車載用スピーカー全般の受注増・販売堅調、さらに「Sound by Onkyo」等のブランドを生かした展開も好調であったが、環境関連製品の販売減、インド合併会社の立ち上げ関連費用発生、加振器（Vibtone）の開発強化により減収減益

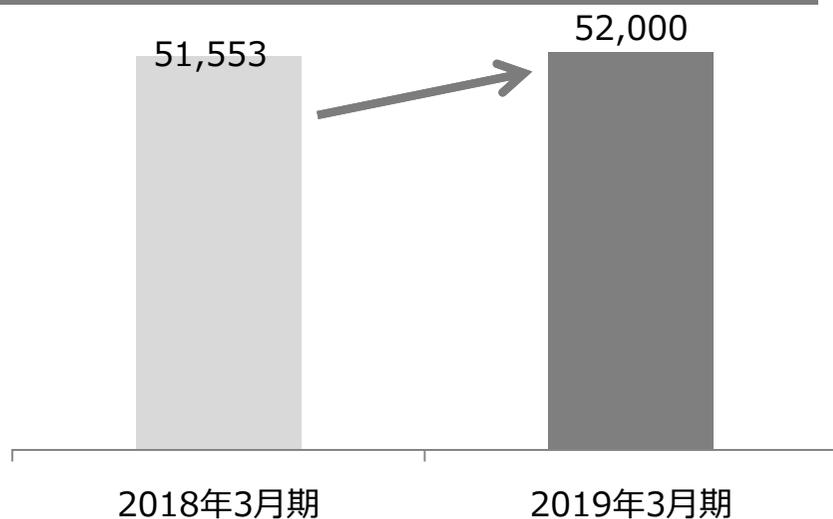
2019年3月期 業績予想

- 売上は微増ながら営業利益・経常利益・当期純利益は大幅改善
- 「生活のいたるところにオンキヨーを」をグローバルに推進 OEM事業でもブランド訴求
- 市場として伸びしろのあるデジタルライフ事業、OEM事業の強化とAV事業の効率化
 - 【AV事業】 構造改革による効率化、不採算モデルの継続的な見直しの徹底
 - 【デジタルライフ事業】 供給停止問題解決、海外展開の強化で売上増
 - 【OEM事業】 インドにおけるスピーカー事業の受注拡大
- 2018年3月期の開発成果の事業化へ AIソリューションのOEMチャネルでの提案開始
- 構造改革の効果（固定費約1,200百万円削減）の表出
- 2018年3月期に未計上の一部売上の計上

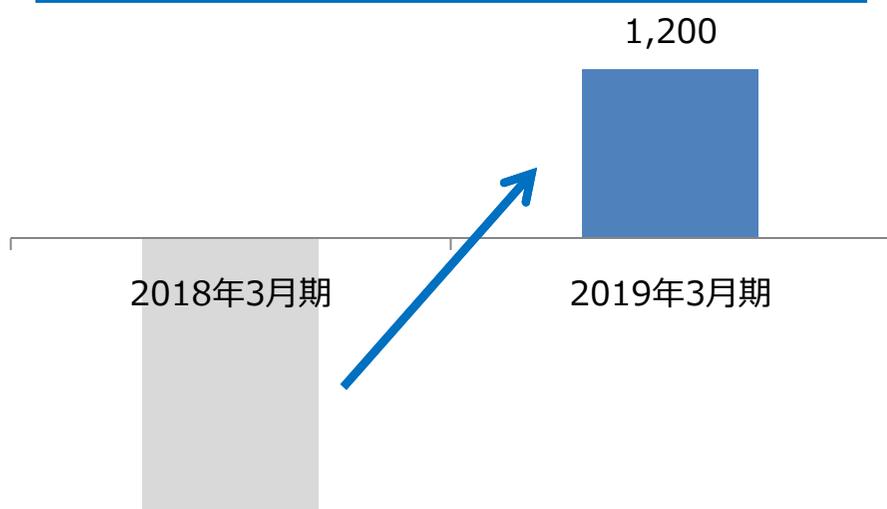
2019年3月期 連結業績予想

単位：百万円

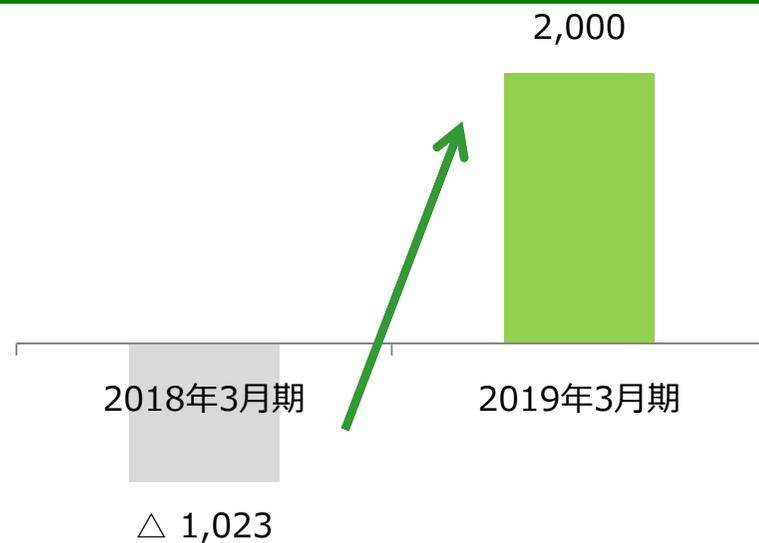
売上高



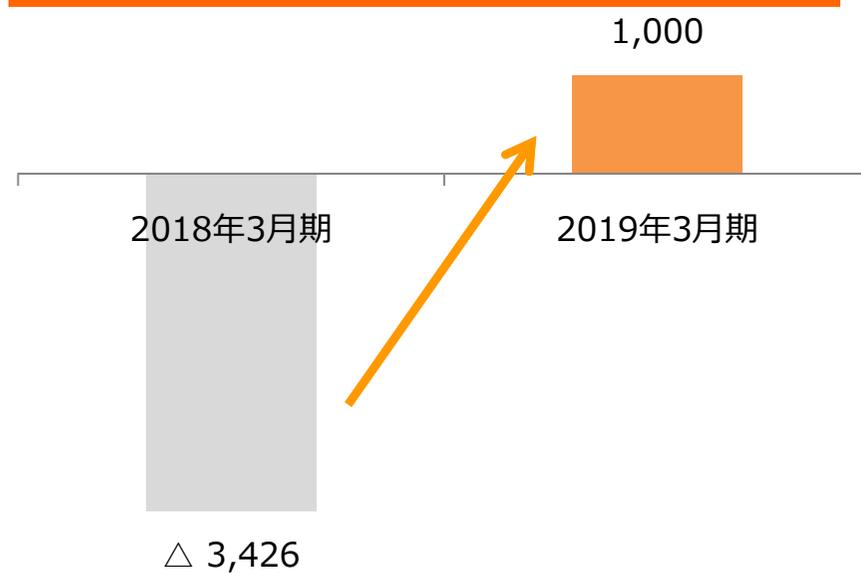
経常損益



営業損益



純損益



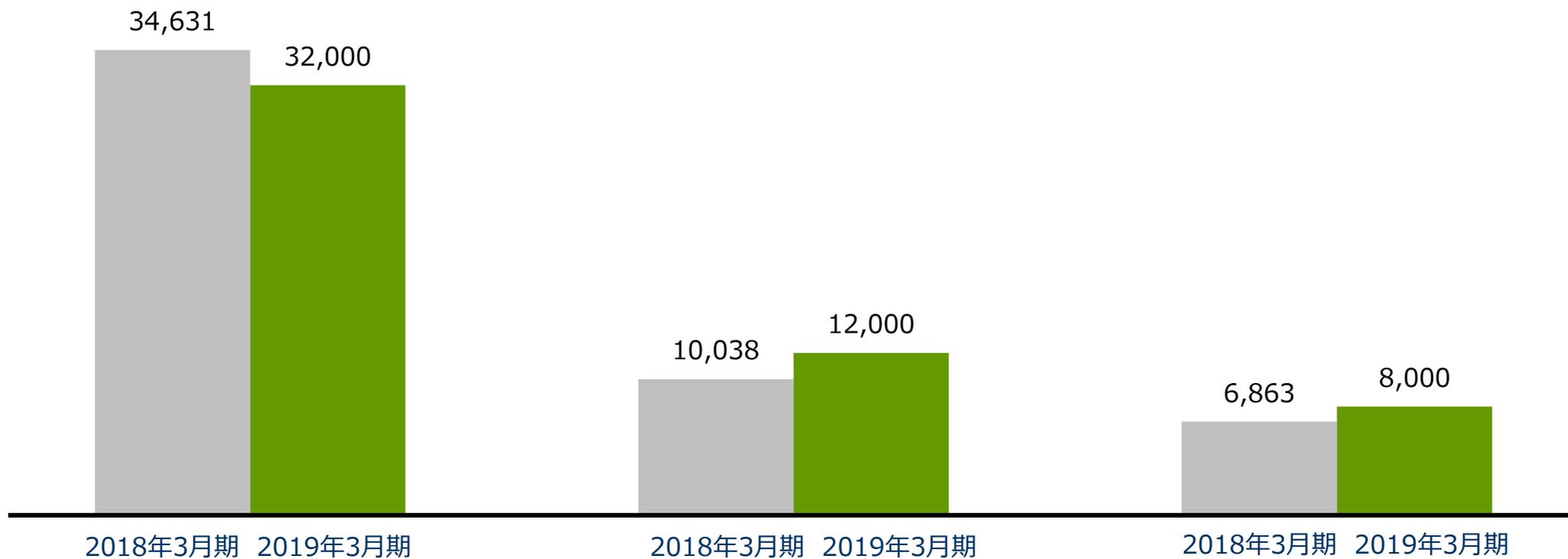
セグメント別 売上予想

■ ■ 売上高

AV事業

デジタルライフ事業

OEM事業



成長に向けた取り組みについて

「生活のいたるところにオンキヨーを」 広がる音の提案

ブランドコラボレーション・Vibtone（加振器）活用

- 当社スピーカーの搭載、音質監修等を提供、「Sound by Onkyo」、「Powered by Onkyo」等のロゴを、高い音質性能を証明するものとして製品や販促物等に明示
- Vibtoneの利用方法を開発従来のスピーカーでの課題を解決して新しい音の楽しみ方をご提案



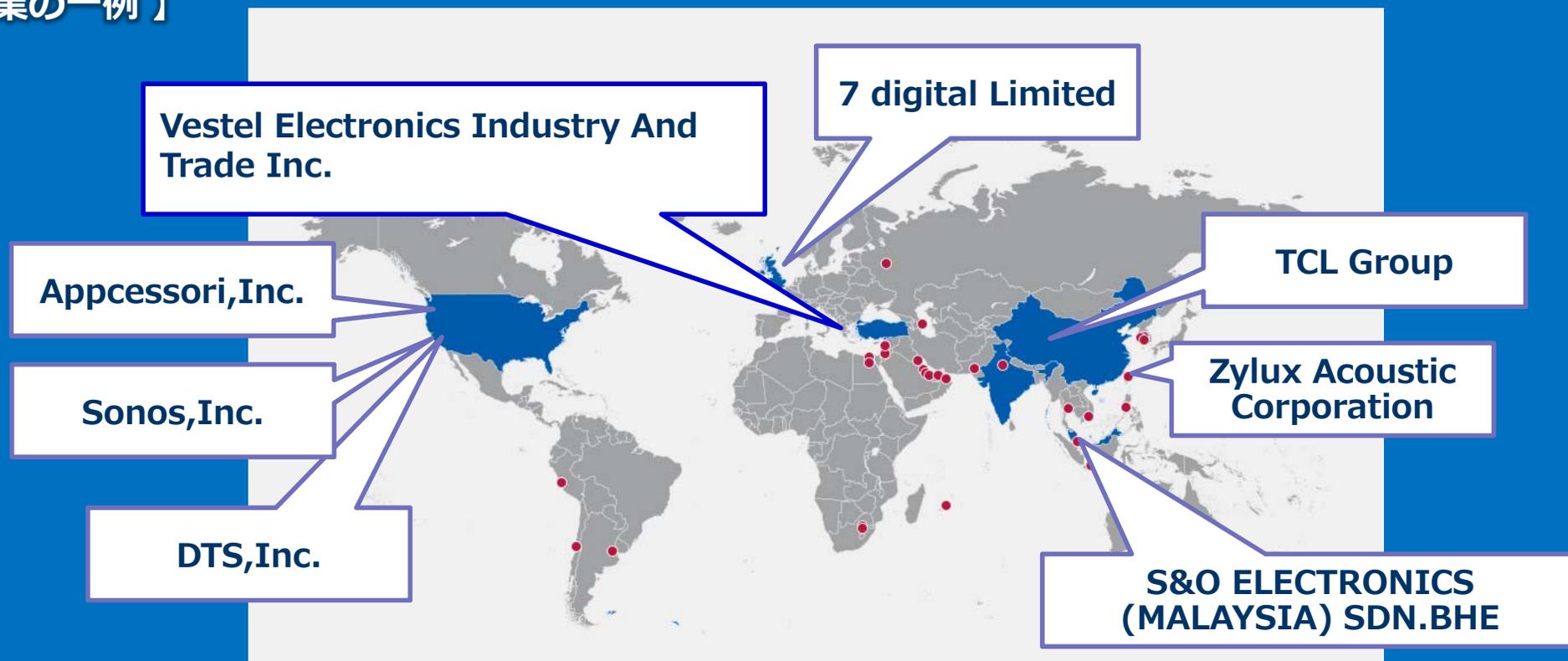
成長に向けた取り組みについて

「生活のいたるところにオンキヨーを」 グローバル協業でブランド強化

他社との協業による拡大

- 国内に限らずグローバルで活躍する各企業との協業や提携により、生産・販売を強化、事業分野拡大も
- テレビなどOEM事業でもオンキヨーブランドの認知度向上へ

【 協業の一例 】



成長に向けた取り組みについて

AIと音の融合によるAIソリューションのご提案

独自のAI【Onkyo AI】

- お客様の多様なニーズに応えることができる、カスタマイズ可能な当社独自のAIシステム

AIと音の融合

- お客様のニーズにあわせたカスタマイズ可能なOnkyo AIと、多様なシチュエーションでもオンキヨーの音を実現してきた技術を活かし、本格的なAIと音の融合をさまざまなソリューションの形として提案開始



4月に東京で行われたAI・人工知能EXPOでは、AI対応のVibtone内蔵スマートパネルを参考出品

成長に向けた取り組みについて

AI関連の積極的な開発と事業化への取り組み

独自AI「Onkyo AI」でホームからアウトドアへ（参考出品）

【AIスマートオートモーティブ】



- SIM、バッテリーを搭載、車の中だけでなく、屋外・アウトドアでも使用可能なスマートスピーカー
- ノイズの多い車内でも高い音声認識率と、聞き取りやすいAIアシスタント音声を実現
- 今後、スマートデバイスリンク（SDL[※]）対応を進め、豊かなモビリティライフ実現に貢献



※SDLとは、スマートフォンと車を連携させるサービスです。トヨタ自動車と米フォード・モーターが中心となって立ち上げられたSDLコンソーシアムに当社も2017年に加盟しました。

【AIスマートウェアラブル】



イメージ図

- 身に付けるだけ、話すだけで自動的にONとなる完全なハンズフリーを実現
- 機器からの音楽・音声と、周囲の音を両立させる新技術
- 装着感を感じさせない軽量性ながら十分な音量感

成長に向けた取り組みについて

インド スピーカー事業

- Minda Industries Ltd.との間の合弁会社 Minda Onkyo India Private Limitedにて、スピーカー生産を本格稼働
- 増資も行い、好調な受注に対応し生産ラインを増設、生産能力を拡大中



MINDA ONKYO



グループ事業構造改革

既存事業の合理化・効率化・最適化
AI/IoT分野への新しいチャレンジを推進できる体制に

AV事業とデジタルライフ事業の企画から販売までの業務の集約・一元管理化

開発・技術設計部門の連携強化

マーケティング活動の強化

(アニメ等とのコラボ製品の企画販売、ハイレゾ音源配信等をマーケティング部門へ)

カスタマーサポート、修理等業務の統合

インド、中国における生産拠点最適化

コスト見直し 収益構造の改善

業務用音響機器事業を行う子会社の株式を譲渡

グループ従業員数 17%減（2017年9月末比） 2019年3月期には約1,200百万円の固定費削減見込み

ONKYO®

本資料に記載されている業績や見込、将来に関する記述等は資料作成時点において入手可能な当社およびその関係会社の情報に基づいて予測し得る範囲内で当社が作成したものであります。これらの記述はリスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を保証いたしません。実際の業績は今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

なお、記載されている会社名および製品・技術名・役務名等は、各社の登録商標または商標です。